

平成26年度小児等在宅医療 連携拠点事業報告

三重県

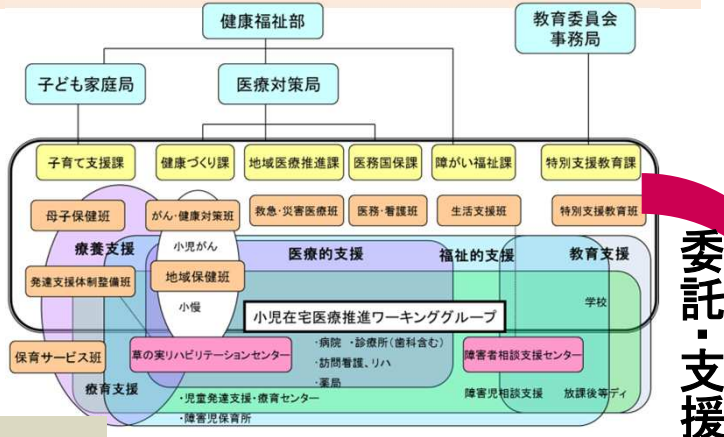




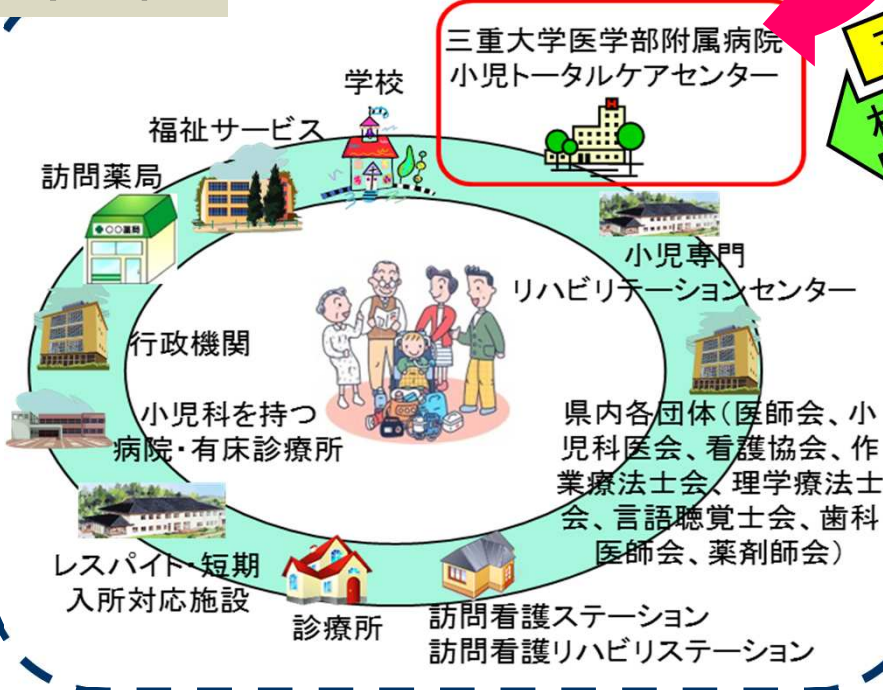
三重県の取組報告



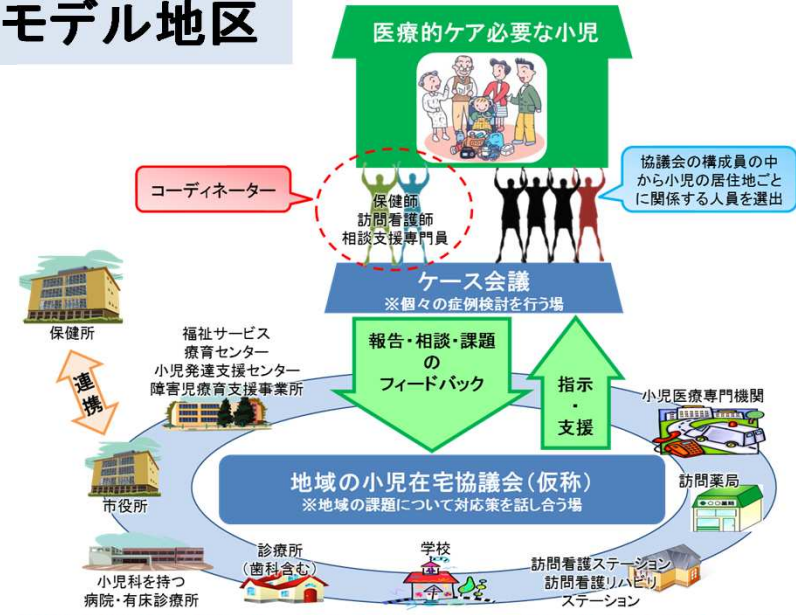
県庁内小児在宅医療推進WG



県全体



モデル地区



平成26年度小児等在宅医療連携拠点事業成果報告会
平成27年3月13日厚生労働省専用22会議室

昨年度提示された課題

①対象となる小児の把握

②体制(ネットワーク)づくり

③家族への支援

④教育・福祉との連携



①対象となる小児の把握



重症心身障がい児数※ ¹	222	小児科・NICU病院対象者数※ ⁷ (回収率39/42=93%)	18歳未満 62	18歳未満	18~40歳未満
小児慢性特定疾患登録数※ ²	56	人工呼吸器管理している入院患者数※ ⁸		18	100
学校教育現場での対象者数※ ³	98	在宅指導管理料算定数※ ⁹	経管栄養	52	39
市町保健師の訪問対象者数※ ⁴	79		気管切開	20	5
訪問看護ST対象者数※ ⁵ (回収率 60/104=58%)	79		人工呼吸器	30	48
訪問リハビリST対象者数※ ⁶ (回収率 68/107=64%)	67	小児科診療所対象者数※ ⁷ (回収率 217/329=66%)	13		
		人工呼吸器管理している入院患者数※ ⁸		0	0
		在宅指導管理料算定数※ ⁹	経管栄養	2	0
			気管切開	0	0
			人工呼吸器	0	1
		在宅療養支援診療所対象者数※ ⁷ (回収率 134/171=78%)	1		
		人工呼吸器管理している入院患者数※ ⁸		2	5
		在宅指導管理料算定数※ ⁹	経管栄養	1	4
			気管切開	1	4
			人工呼吸器	0	9

※1: H26.4 県調査 身障手帳1級+療育手帳A 取得児
 ※2: H26.4調査 悪性新生物、慢性腎・慢性呼吸器疾患
 ※3: H26.11調査 文科省調査による医療的ケアが必要な児
 ※4: H26.12県調査 H26年度 訪問(予定含む)している児
 ※5: H26.11調査 現在、訪問している児
 ※6: H26.11調査 平成26年度 訪問リハを行っている児
 ※7: H26.12調査 11月診療実績人数一重複あり
 (経管・中心静脈栄養、気切、人工呼吸器、終末期医療)
 ※8: H26.12調査 H26.6.1から30日間連続人工呼吸器管理
 ※9: H26.12調査

18歳未満: 1996.7.1以降生まれ ~40歳未満: 1974.7.1~1996.6.30生まれ

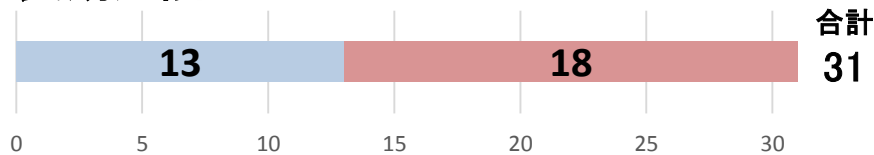


①対象となる小児の把握

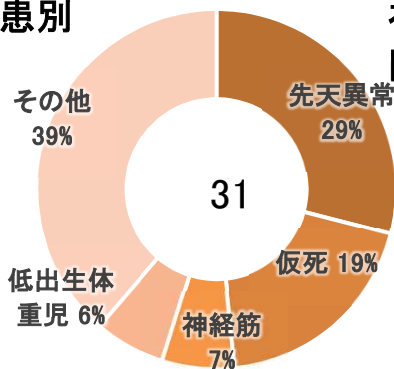


- NICU病院
- 小児科診療所
- 小児科標榜病院
- 在宅療養支援診療所

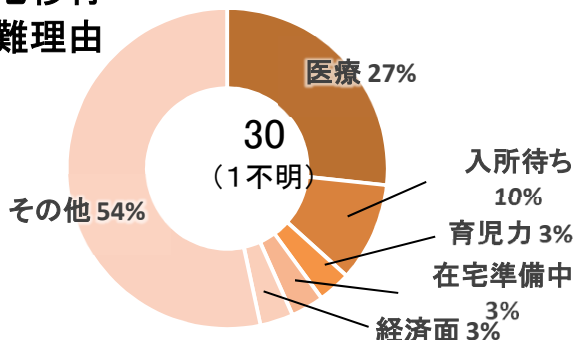
●長期入院 (H26.12現在、6ヶ月以上入院している児)



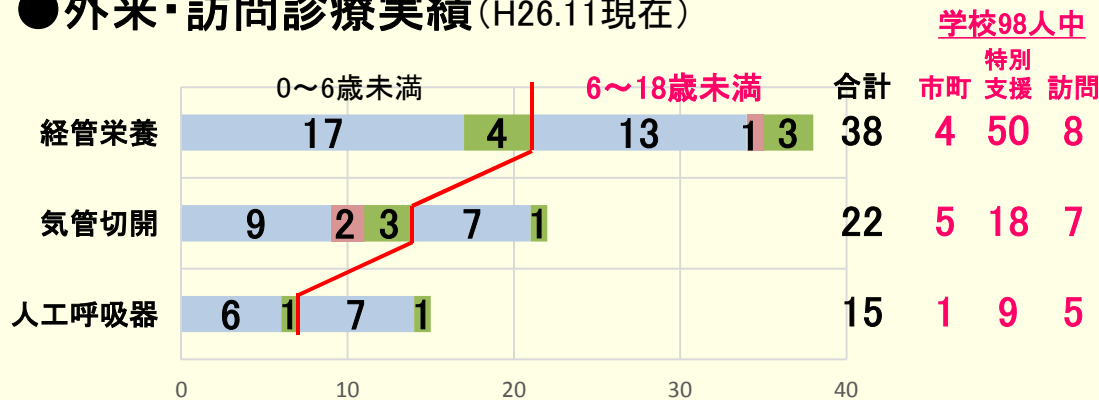
疾患別



在宅移行困難理由

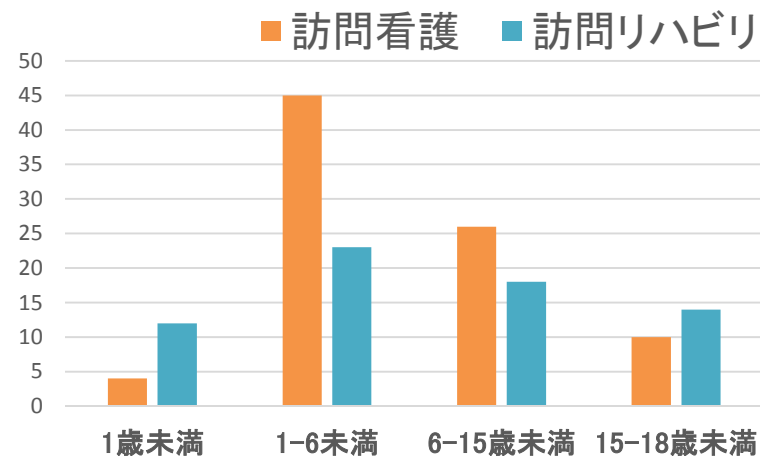


●外来・訪問診療実績 (H26.11現在)

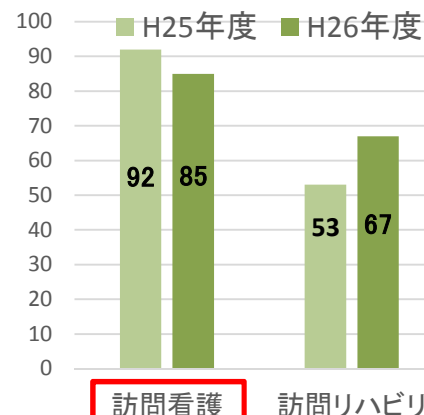


訪問看護・訪問リハビリ

年齢別実施数



H25・H26年度の比較



訪問看護重症児スコア判明内訳

	H25	H26
10点以下	10	23
準 超重症児	26	26
超重症児	23	19



②体制づくり

「モデル地区事業」



桑名市

桑名地域小児在宅医療講演会 (H27.1.17)



・特別講演
地域で医療的ケアが必要な重症心身障害児(者)を支え合う
名古屋大学三浦清邦先生

桑員地域(2市2町)障がい福祉担当課長会議の開催 (H27.2.4)

- ①医療型発達支援センター設置について検討
- ②地域の関係者からなるネットワーク組織の立ち上げ

鈴鹿市

鈴鹿地区小児在宅医療多職種連携会議 (H26.9.19、H27.2.16)

- ・調査結果の報告・対象児の把握
- ・事例報告・多職種連携会議開催

第一回鈴鹿市小児等在宅医療にかかると行政機関等連携会議 (H27.1.29)

- ・現状把握報告
- ・情報共有検討 (情報共有シートの活用)
- ・事例検討



②体制づくり 「コーディネーター」



市町保健師

- ① 保健師アンケート (29市町配布 回収率100%)
小児活動研修希望: 27/29(93%)
1位. 地域連携 2位. 家族支援 3位. 事例検討
- ② 保健師研修会 実施 (H27.2.2)
小児がん在宅看取り事例の振り返り: テーマ「小児がん」

訪問看護師

- ① 訪問看護STアンケート (104事業所配布 回収率 58%)
小児活動研修希望—46/60(77%)
1位. 小児看護の知識 2位. 医療的ケア・技術 3位. 家族看護・事例検討
- ② 訪問看護研修会 (県看護協会協力) 実施 (H26.10.5・12)

相談支援 専門員

- ① 県庁内WG対象 相談支援専門員の研修にあたり (H26.10.23)
講師 千葉県 麒麟会 谷口由紀子さま
- ② 福祉と医療の連携を深めるための研修会 (H26.12.9・17)



③家族への支援



相談支援事業

モデル地区事業

電話相談

○桑名市 支援ガイドブック作成

相談者	件数
家族	52
保健師	13
児童相談所	2
訪問看護ST	21
相談支援専門員	1
市町行政	5
特別支援学校	1
医療施設	13



- ・相談・訪問事業について
- ・医療費などについて
- ・予防接種について
- ・障害者手帳・福祉・医療サービスについて
- ・税金・手当・各種料金などについて
- ・療育センター
- ・保育・教育について
- ・訪問看護ステーション
- ・親の会・支援団体など
- ・関係機関の電話番号

○鈴鹿市 保護者へのニーズ調査

- ・ サービスに対する希望
(ベビーシッター、相談窓口案内、将来の相談、親同士のつながり)
- ・ 訪問看護、訪問リハビリなど相談窓口
- ・ ケアマネージャーが欲しい
- ・ 就労支援、居住支援の充実

対応職種：

小児科医、小児看護専門看護師、MSW

(三重大病院 小児トータルケアセンター報告)



③ 家族への支援



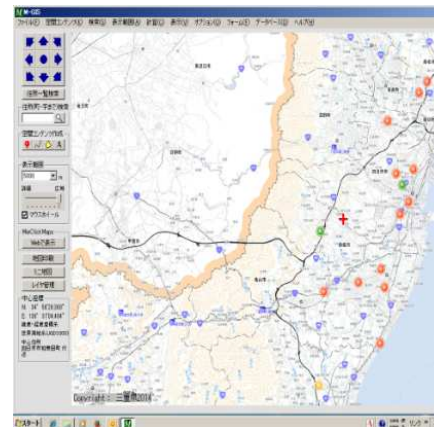
公開シンポジウム(H27.2.8)

参加者数 : 193名

一般	8%
医療関係者	53%
行政関連	25%
その他	14%



県ホームページ(小児在宅資源情報)



※作成中

レスパイト・短期入所

- 課題 地域偏在・施設限定
- 成果:
 - ・重症心身障害児(者)施設間での共有待機者リスト作成(中)
 - ・自立支援協議会の医療的ケア部会の設置検討(中)

隣県との連携拡充

— 第一回東海小児在宅医療研究会 —

- 経緯
- 岐阜県からのお誘い
- 期待される成果
 - ・行政と基幹組織との連携
 - ・情報交換・共有
 - ・問題意識の向上
 - ・対象児把握





④教育・福祉との連携



教育

● 特別支援学校への支援

研修名	対象者	参加数
医学一般	医ケア初教員	24
スキルアップ セミナー	教員・常勤講師※	29
	常勤講師※	16

常勤講師※ 看護師免許所有

● 学校訪問による課題の抽出

☆ 市立小学校

- ・ 看護師確保とスキルアップの困難さ

⇒ 市町/県教育委員会との連携

☆ 特別支援学校

- ・ 常勤講師として看護師確保
実教員数の減少⇒ 文科省と要協議
- ・ 卒業後の進路： 少ない

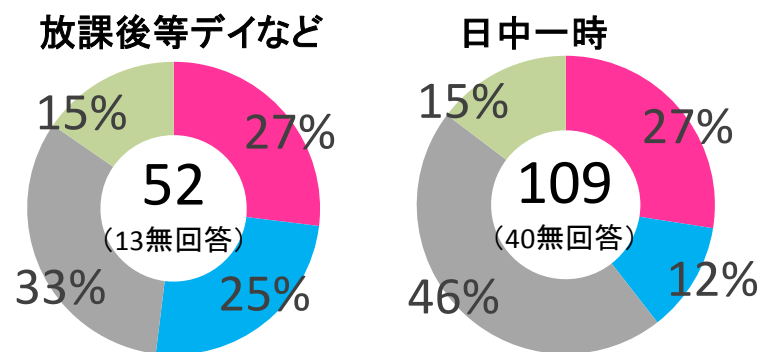
⇒ 障がい福祉サービス事業所の医療職確保

福祉

● 福祉事業所調査結果

調査回収率 放課後等デイなど：79% (65/82)

日中一時：65% (149/229)



- 保護者の付添がなくても 利用可能
- 保護者の付添があれば 利用可能
- 保護者の付添に関係なく 利用不可
- その他

● 施設別利用不可の理由

	放課後等デイなど	日中一時
1位	看護師不足	看護師不足
2位	安全保障困難	設備の問題
3位	痰吸引登録者不足	人員不足



うまくいかなかった点及びそれを踏まえた提案



残された課題

- 取り組み地区の拡大
- 未就学児の数の把握
- 継続的な人材育成
- 多職種・多機能連携
- レスパイトの拡充

今後の取組

- モデル地区以外への啓発
- 医療的ケアの内容の見直し
- 主要な事業所の人材の発掘
(それぞれの地区で拠点化)
- 各地域・各分野の連携強化
- 自立支援協議会に医療的ケア部会を設置

提案

- 学校における医療的ケア実地体制整備のための専門職(看護師等)の人材確保に関する仕組みづくり
- 福祉施設での介護保険対象外の利用者に関わる看護師確保の仕組みづくり
- コーディネーターの明確化